

紙づぶ

米国での工学教育に関して情報を集めている時に、アウトカム(out come)とアウトプット(out put)といふ言葉に出会った。アウトカムは効果と、アウトプットは効率と意訳すると理解できる。

講義の効果とは、受けた学生がその後の人生にどのように役立つたかを、効率は講義の出席率や試験の点など数字で表現できるものを指す。物事をなすときに一番重要なのは効果であり、決して効率ではない。特に教育では、効果が大切な指標だろう。米国の大学では、教授の講義を受けた卒業生を対象に十年後、その講義が本人の仕事や実生活にいかに役立ったかを聞き取り調査してい

やまもと
尚
山本

効果と効率

シカゴ大学で、当時経理関係を束ねる仕事をしていた女性に「あなたの仕事は一言で言うと何でしようか」と尋ねた。彼女は「財団や政府の上部機関から、大学の研究者にさまざまな資料作成を頻繁に依頼されるが、それらの通達を私の段階でせき止め、決して研究者には行かないようにしてることだ」と答えた。私は感動した。

研究者の社会に対する貢献は研究の成果であり、誰も見ないような資料の作成ではない。しかし効率を重んじる人は、それを大切だと思いがちだ。本末転倒である。日本の社会では本来の目標を忘れ、直近で見える効率だけを重んじる風潮を時折見かけるのは残念でならない。